

研究者から見る

オープンアクセスとパブリックアクセス

植田憲一

電通大レーザー新世代研究センター

日本学会議講堂

2014年3月13日

IUPAP WG on Communication in Physics

1999年APS100周年記念パネル討論会を契機に、
10年後の物理系ジャーナルのあり方を議論するため、
IUPAP内に設置 定期的情報交換とIUPAPへの勧告

APS 米国物理学会

IOP 英国物理学会

EPS 欧州物理学会

JPS 日本物理学会、応用物理学会

CERN 欧州加速器機構

ICTP 理論物理国際センター

+

CPS/CAS 中国物理学会/中国科学アカデミー

Brazil ブラジル物理学会

Gene Sprouse

Nicola Gulley

Xavier Bouju

Ken-ichi Ueda

Rudiger Voss

Enrique Canessa

Lu Li

Sergio M Rezende

研究成果の公開: Open AccessとPublic Access

先進的Open Access活動

LANL Pre-print server → arXiv.org プレプリントの公開と配布は長い伝統

SPIRE → INSPIRE HEP論文データベース

SCOAP3: 加速器施設の援助で、HEP無料投稿、無料購読へ(理論家の援助)

OA GoldのトップジャーナルOptics Express, New Journal of Physics (>1997)

OA Hybridはすでに一般的

self archivingは伝統的、研究者の権利意識

興味があるのは中身のみ、体裁などは意味がない。

日本語論文が重要

文科省、JST?

日本でも公的サポートで直ちにすべき事業

幅広い研究成果の公開: Public Access

1. 全米の**公的図書館**、**高校図書館**からのアクセスは無料

日本の学会も既に実施

2. ICTPを通じた**開発途上国への無料公開**(たとえ南アフリカ、北朝鮮でも)

研究者が必要を感じることには**Fare Use**を奨励してきた。

Copy rightについても目くじらを立てない。立てても、従わない。

秩序だった利用は追求するが、学術活動を制限することはしない。

Open Accessと学術活動の循環



循環系の構築が重要

学術情報におけるSustainabilityの重要性

学術情報、知識の記録、流通は、Sustainabilityがあって、初めて価値が出る。

ほとんどの“新しい知識”はいずれ消え去る運命にある。

定まった真実などは存在しない。

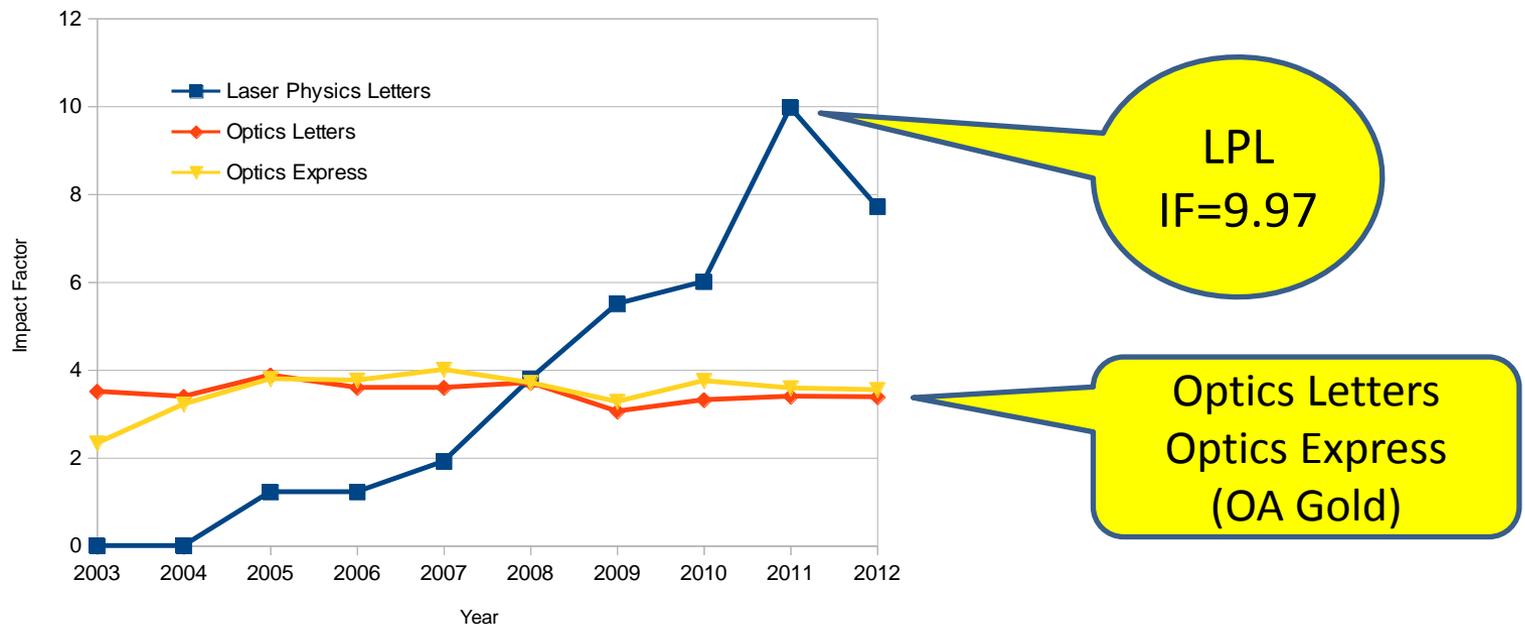
相互批判、追試による真実の追求が科学研究の本質である。

うたかたの泡の情報では、真の知識を選別、沈殿させることができない。

学術論文は正しい知識だけを伝えるための辞書ではない。

偉大な知識の獲得には、偉大な間違いも必要で、多くの研究者は偉大な進歩を生み出すための準備に参加する蟻である。しかし、その蟻は誇りを持った蟻である必要がある。学術研究の発表と流通、事後評価から引用された研究の過程は、真実を求めるための沈殿作業である。歴史に残る研究成果はごくまれで、例外的である。学術成果を最大限に公開するのは、研究そのものの公的性格から当然であるが、公開された成果を利用する側も、学術成果の責任を持った評価、人類の知的資産の沈殿、浄化作用に参加する必要がある。

Editor経験から ケーススタディー(AO, JOSA-B, QE, OR, LPL etc.)
Laser Physics Lettersは、IFの観点で非常な成功を収めた。
論文投稿も順調で、掲載率30%はトップジャーナルの証である。
しかし、編集委員会は、LPLがOptical Scienceにおけるトップジャーナルは、
Optics Letters, Optics Expressであると認識している。



成功の理由は3つ、1)レーザー物理に限定した専門誌、2)欧米ジャーナルの先端指向と逆の本来指向(Old Science?)、3)ロシア科学アカデミーの努力(残光?)

参考資料 日本の物理系ジャーナル(PTP, JPSJ, APEX, JJAP)は世界の一流誌である。総合誌、応用分野のIFはそれほど高いわけではない。

	LPL	OL	OEx	PTP	JPSJ	PR-B	APEX	APL	JJAP	JAP
	Russia	US	US	Japan	Japan	US	Japan	US	Japan	US
2007	1.918	3.711	3.709	1.936	2.212	3.172		3.596	1.247	2.171
2008	3.779	3.772	3.88	1.661	2.058	3.322		3.726	1.309	2.201
2009	5.502	3.059	3.278	2.368	2.572	3.475	2.223	3.554	1.096	2.072
2010	6.01	3.318	3.753	2.553	2.905	3.774	2.778	3.841	1.024	2.079
2011	9.97	3.399	3.585	2.294	2.364	3.691	3.013	3.844	1.058	2.168
2012	7.714	3.385	3.546	2.479	2.087	3.767	2.731	3.794	1.067	2.21